

留学生が関西で活躍し続けるために ～関西における留学生の就業・定着支援の動向と グローバル人材活用運営協議会の活動状況～

留学生の就業支援を目的として、関西の経済団体、大学、大学コンソーシアム、行政機関が参加して設立された「グローバル人材活用運営協議会」(事務局：関経連)は、2017年6月で発足から4年が経過。設立以降、留学生を取り巻く環境の変化に対応しつつ、さまざまな取り組みを行ってきた。ここでは、関西における留学生の就業・定着支援の動向を紹介するとともに、協議会で実施している産学官協働の取り組み状況について報告する。

グローバル人材活用運営協議会の概要 ⅢⅢ

グローバル人材活用運営協議会(以下、協議会)は、留学生が関西で学び、関西で就職する仕組みの構築をめざして、2013年6月に設立された関西の産学官協働の組織である。協議会では、事務局を務める関経連を中心に、構成22団体が協働で留学生の就業・定着支援に取り組んでいる。

現在、日本の教育機関に在籍する留学生が日本国内で就職する割合は3割程度にとどまっている。留学生の日本での就職が進まない背景には、日本の就職活動の方法や採用慣行等が留学生に十分認知されていないことや、留学生と企業が交流する機会が不足していることなどがある。また、技術力のある中堅・中小企業の魅力等の情報が留学生に十分に伝わっていないといった課題が存在している。

そこで協議会では、こういった課題の解決策として、留学生の就職活動の準備段階から、実際の採用、就職後の企業への定着に至るまでを一貫してサポートするため、5つのカテゴリーで事業に取り組んでいる(図1)。

留学生の就業・定着支援を巡る状況 ⅢⅢ

■ 留学生の増加と政府による支援拡充に向けた動き
協議会の設立以降、留学生を取り巻く環境は少しずつ変化している。

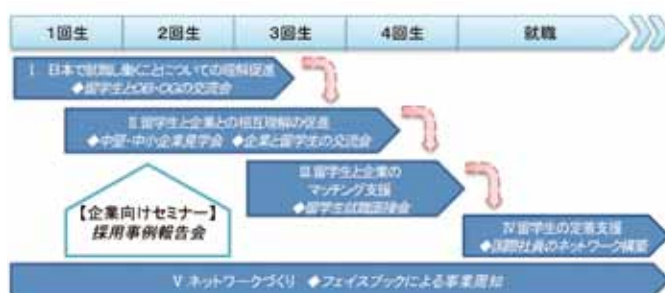
2013年に約16.8万人だった留学生数は、2016年までの3年間で、約23.9万人まで増加した*1。このうち、特に顕著な伸びを示しているのが日本語教育機関と専修学校に在籍する留学生で、出身国別では、ベトナムとネパール出身の留学生の増加が著しい。留学生数の増加に伴い、就職者数も増加を続けている。2015年の1年間には、約1.5万人の留学生が日本国内の企業に就職した*2。

このような状況のもと、政府は、日本再興戦略2016に、「外国人留学生の日本国内での就職率を現状の3割から5割に向上させる」との目標を盛り込み、関係省庁において目標達成に向けた具体的な事業を開始している。

例えば、経済産業省は、「技術協力活用型・新興国市場開拓事業」において、親日・知日人材のコミュニティ形成の一環として、留学生と日本企業のマッ

チングを目的としたジョブフェアを2016年から開催している(大阪開催分は2016年：協議会共催、2017年：協議会後援)。厚生労働省では、外国人雇用サービスセンターが、留学生を対象とする恒常的な就業支援やインターンシップ事業を実施している。文部科学省は、「住環境・就職支援等受入れ環境の充実事業」「留学生就職促進プログラム」を相次いで開始し、大学等における留学生の就職支援の動きを加速させている。

〈図1 グローバル人材活用運営協議会の事業イメージ (大学の入学から卒業まで)〉



■ 関西における留学生の就業・定着支援の動向

関西においても、留学生数は、2013年の約2.9万人から、2016年には約4万人まで増加した(図2)。就職者数も順調に増加し、2015年には1年間で、約2,500人の留学生が新たに関西の企業に就職した(図3)。



協議会を中心として、構成団体をはじめとする関西の経済団体、大学、行政機関等でも、留学生の就業支援に関するさまざまな取り組みを行っている。

例えば、協議会では就職面接会を毎年開催しており、昨年は企業39社、留学生391名が参加し、44名が内定に至った。



大学コンソーシアムひょうご神戸は、留学生対象のインターンシップ事業を2009年から実施し、留学生と企業の相互理解の促進に寄与している。

また、京都では大学コンソーシアム京都を事務局とする「留学生スタディ京都ネットワーク」が結成され、留学生対象のインターンシップや交流会等の事業を開始した。

さらに、関西大学と大阪大学を中心として結成された「CARESコンソーシアム」では、今年度より留学生就職促進プログラムの採択を受けて、留学生が「日本語能力」「日本での企業文化等キャリア教育」「中長期インターンシップ」を一体として学ぶ取組

み(SUCCESS-Osaka事業)をスタートさせた。

協議会では自主事業と並行して、関西一円で進むこれらの取り組みへの参画・協力をを行い、産学官協働のプラットフォームとしての存在意義を発揮している。

定着支援に向けた新たな取り組み IIII ～「元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット」の活動～

留学生に対する就業支援の取り組みが充実してきた中で、多くの機関でカバーできていない分野が、企業に就職した留学生の「定着支援」の取り組みである。

そこで、協議会が2016年より新たな試みとして開始したのが、国際社員のネットワーク構築のための交流会「元留学生社会人交流会 サロン・デ・ゼクスパット」である。

サロン・デ・ゼクスパットでは、大阪大学国際教育交流センター特任准教授(常勤)の金孝卿氏をファシリテーターとする、「ビジネスコミュニケーションのためのケース学習」を毎回実施している。

ケース学習は、日本企業や日系企業のビジネスの現場で実際に生じたコンフリクトの事例を題材としたグループディスカッション等を行い、母国と日本の文化の違いも意識し

つつ、自らの普段のコミュニケーションを振り返ることができるプログラムとなっている。



ができるプログラムとなっている。

サロン・デ・ゼクスパットには、これまでに企業25社から35名が参加しており、参加者数は拡大し続けている。協議会では、今後もサロン・デ・ゼクスパットを定期的に開催し、関西で活躍する国際社員のネットワーク構築をめざしていく。

留学生が関西で活躍し続けるために IIII

協議会は、留学生の就業・定着支援を推進するため、関西広域・産学官協働のプラットフォームとしての特性を生かし、留学生が関西で活躍し続けるための取り組みを引き続き行っていく。

(労働政策部 森木貴志)

*1 日本学生支援機構「平成28年度外国人留学生在籍状況調査結果」
*2 法務省「平成27年における留学生の日本企業等への就職状況について」